

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500811
法人名	社会福祉法人 友情会
事業所名	グループホーム えんじゅ
所在地	徳島県板野郡北島町北村字大開5-7 (電話) 088-697-0757
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 8月 31日

【情報提供票より】(平成19年 8月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 1月 9日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤12人, 非常勤1人, 常勤換算 すみれ7.7人, さくら5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~36,000 円	その他の経費(月額)	共益費9,000円・その他実費	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 15日現在)

利用者人数	13 名	男性	3 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 82.45 歳	最低 68 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 悠穰会 芳川病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道を少し入った静かな田園の中に「グループホームえんじゅ」がある。隣接して消防署があり、連携が図れているので火災や地震等の災害時には心強い条件である。この地域には町内会、婦人会はないが、運営者が消防署から産業医を委嘱されており、ホームも前回調査より地域との交流が図られている。近くにスーパーや商店街があり、職員は、利用者と一緒に買い物に行っている。また、農道を利用して車の通行量の少ない時間帯に散歩に出かけるなどされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>金銭出納簿を作成し、家族に確認印をもらっている。地域の方からホームの存在を認識されつつあるが、関わりについては十分な改善がみられない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者など主となるメンバーが話し合い、報告書を作成後、作成した自己評価の内容は、全職員に周知され十分話し合われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。グループホームの活動状況を報告し、地域の情報の提供を受けて情報交換をしている。近隣のグループホームの管理者、職員の参加もあり、お互いに連携されていた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>グループホームの「重要事項説明書」に行政やその他の所でも苦情を受け付けてくれること、ホーム内の責任者名を記載して、家族や本人に説明をしている。玄関には「意見箱」が置かれ意見や苦情を出しやすいように配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員や利用者は、地域との関係を、日々の散歩や買い物の時の挨拶や地域の行事に参加することから地道に進めている。経営者は、地域の役割を担う姿勢を持ち、そのことで消防署とのよい関係ができています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、グループホームの役割を十分認識され、新しく作成した「運営理念」を、訪問者にわかりやすく玄関やリビングに掲げている。パンフレットも一新して、冒頭に理念を掲載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「運営理念」について、管理者、職員がよく話し合い作成している。時々、職員間でその「理念」の中身を確認し合いながら日々のケアの中に活かしているが、新しい職員には十分伝える事ができていない。	○	新人職員にも、「理念」について、運営者や管理者から十分伝え話し合って意識づけがされるよう、取り組んで行かれない。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が、消防署の産業医として活動に参加しているため、グループホームの情報を伝えたり、地域の情報を知る等、双方向の関係が出てきている。利用者も行事に参加したり、デイサービスの利用者を通して、地元の人々にグループホームの存在や取り組みが認識されつつある。	○	現在は一部の地域との交流となっているため、老人会など地域の関係団体に運営推進会議への参加の声かけをするなどし、交流に努められたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の大切さを、全職員が十分理解している。自己評価は、管理者など主なる職員が作成し、その内容は全員に周知し話し合われている。また、外部評価の結果を踏まえて検討し、ケアの質の向上に日々努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。地域包括支援センターの所長、家族、利用者、近隣のグループホームの管理者や職員の参加があり、ホームの活動状況の報告などがされている。しかし、会議の報告については全員に回覧されていない。	○	運営推進会議の内容が、全職員に周知できるよう取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者には、月1回の利用者の状況の説明、事故報告など、相談に乗ってもらえるような関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に利用者の暮らしぶりや健康状態について、面会の時に伝えたり、月1回写真を添えて、手紙で報告をしている。金銭管理は、家族への十分な説明の上、サインもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や利用者が参加して、意見をのべることができる。「重要事項説明書」には、行政機関その他の相談窓口の明記もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、やむを得ない異動、離職時の人の入れ替わりの場合には、利用者との関係づくりに配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「運営規定」の中に職員研修について明記されており、内部研修や外部研修の計画が立てられている。また、報告書も作成されている。しかし、報告書に回覧された認印等がみられなかった。	○	研修計画、実施記録、研修の資料も整っているが、確認印、サイン等がないので、仕組み作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣の別法人のグループホームの管理者、職員が相互に参加しており、情報交換をしたり、ケアの質の向上に活かしている。県のグループホーム協会にも加入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者が納得して利用できるようにホームを見学して貰うなど、工夫されている。また、入居後も、徐々になじめるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔話を聞いたり、調理方法を教えてもらうなどしている。利用者と職員は、相互に支え合い協働して生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者とは話をしながら、その思いや気持ちを言葉や表情の中からくみ取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成は、利用者、家族、医師や職員の意見や情報を収集し、ケアカンファレンスを開いて総合的に判断して作成している。家族の同意のサインも得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しをすると共に、体調の変化がある時は、その状態に適した介護計画になるように作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や医療連携体制による訪問看護など、柔軟に対応ができるよう心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を聞いて、連携している医療機関の受診や通院介助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療関係者や本人、家族ともよく話し合い、終末期まで看取る方針でマニュアルや看取り介護についての同意書が作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人記録を大切にすることを認識し、記録は鍵のかかるところに保管している。また、プライバシーに配慮した声かけがされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で散歩をすることを好む人がおり、家族の了解をもらい遠くから見守り支援をされている。夕食の食材の買物への外出を利用者で行ったり、玄関の掃除、畑仕事や水やり、洗濯物たたみ、カラオケなど利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた野菜を収穫し、食材に使用したり、希望する利用者には、調理にも参加してもらっている。職員は、同じテーブルで利用者と同じ物を食べて、楽しい会話、雰囲気の中で、食事をするように工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や体調に配慮し、安全に気を付けて入浴介助をしている。利用者の入浴回数を把握し清潔を保つように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味やできることを把握し、野菜や花を育てたり、調理の手伝いや洗濯物をたたむなどしてもらっている。積極的に運営推進会議に出席する利用者もいて、その方の役割として支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の出入りは自由であり一人で農道を散歩する人もいる。グループホームの駐車場や畑に行く際には安全に配慮し、見守っている。食材の買い物には、外出を希望する利用者と一緒にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーはあるが、外出の希望の気配を把握して鍵をかけない支援がされている。居室は、収集癖の人がいるので、利用者の希望があれば居室を出た後に鍵をかけられている。夜間は防犯対策のため玄関に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。隣接して消防署があり、連携が図れているので火災や地震等の災害時には心強い条件である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の把握がされており、水分摂取は、食事やおやつの時、入浴後、夜間はペットボトルに入れて持ってもらうなど配慮されている。また、管理栄養士の意見や助言も聞いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの玄関には、利用者の手作りの暖簾が掛けてある。南側からホールには明るい光が入り、利用者がくつろげるよう配慮されている。また、2ユニットの間には中庭やテラスがあり、木を植えて季節感が感じられる工夫がされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が思い出の写真を飾ったり、使い慣れた家具や小物の品々、手作りの置物を置いてある。位牌を持参している利用者もおられ、一人ひとりに合わせた居室作りがなされていた。		